

学会設立に関する1通の資料

兵庫教育大学 中 村 哲

社会系教科教育学会は、平成元年11月26日（日）に兵庫教育大学教育・言語・社会棟1階122号室（視聴覚教室）にて社会系教科教育学会設立研究発表大会の総会を開催して設立された。初代会長として星村平和先生が就任され、第2代会長に岩田一彦先生がなられ、現在では第3代会長を私が担当している。先代の両先生の下で本学会の設立と運営に尽力してきたことが思い出され、20年という歴史の時間経過から改めて本学会の活動意義を感得している。

そのひとつが本学会設立準備段階として平成元年8月に兵庫教育大学関係者の社会系教科教育学会設立発起人一同（岩田一彦 中村哲 寺尾健夫 金子廉 星村平和 古林森広 秋本弘毅 今別府久 宮崎和夫 佐堂正義 野崎純一 菖蒲谷義人 長野代志美）による次の呼び掛け資料である。

拝啓

残暑の候、皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

ところで、この度、兵庫教育大学社会系教科教育研究室を母体とする社会系教科教育学会の発足に、ご賛同・ご協力を賜わりたく、お手紙を差し上げた次第でございます。

学校教育に関する教育実践的研究の促進を理念とする本学は創設以来10年を過ぎ、社会系教育講座の修了生は300名近くとなり、全国の小・中・高の学校、教育センター、教育研修所、教育委員会等にて活躍されています。しかしながら、本学修了後においては、教育実践的研究を進展させていく研究機会が少ない現状です。その為、本学修了後における継続的研究機会の必要性が、数多くの修了生の方々から指摘されてきました。さらに、最近では教育実践に関する研究会が全国各地に設けられ、多くの先生方において学校教育での教育実践的研究の関心が非常に高まってきております。

また、本年3月に告示されました新学習指導要

領に見られますように、わが国における社会科の教科編成が大きく変わることになりました。その意味では、戦後のわが国における民主主義社会の建設と発展に寄与する児童・生徒の育成に、重要な役割を果たしてきた社会科教育の理論と実践が改めて問われている状況であります。

これらの状況から、本学の修了生ばかりでなく、全国各地において社会科の教育実践の研究に励まれておられる諸先生方のご参加を求めて、社会科の教育実践に関連する情報の発信基地としての学会を設立することは意義あるものと考えられます。

その第1歩として、本学社会系教科教育研究室では昨年度から研究誌の企画をし、この度同封の『社会系教科教育学研究』を刊行する運びとなりました。創刊号は、本年3月に修了しました院生の論文を掲載しましたが、学会発足時においては本誌を学会誌と位置づけ、学会員の研究論文を公募する予定です。さらに、本学会の発足を兼ねまして11月26日（日）に本学にて、研究発表会を企画しています。（詳しくは、後日ご連絡いたします。）

就きましては、皆様におかれましてはご多忙のことと拝察いたしますが、本学会の発足にご賛同・ご協力を賜わり、本学会の発展に積極的に関与していただきますことを、学会設立発起人一同で、お願い申し上げます。（略）

敬具

この呼び掛けによる会員登録は、本学大学院OB（8期生まで）が71名、本学と他大学の教員、附属と公立の学校教員が36名。9期と10期の在院生21名が加わり、約130名の会員数。そして、本学修了生の同窓会的性格を有していた。その意味では、本資料は設立時の本学会の性格を明確に反映している。今年度の会員数は486名。今後は、本学修了生の同窓会的性格から全国学会としての研究的性格の形成を推進していくことが重要になる。